

HANNAH AND HER SISTERS



ウッディ・アレンの最新作…おんなく女三人寄れば…愛が見えてくる。

ウッディ・アレン / マイケル・ケイン WOODY ALLEN MICHAEL CAINE
ミア・ファロー / キャリー・フィッシャー MIA FARROW CARRIE FISHER
バーバラ・ハーシー / ロイド・ノーラン BARBARA HERSHEY LLOYD NOLAN
モーリン・オサリバン / ダニエル・スターン MAUREEN O'SULLIVAN DANIEL STERN
マックス・フォン・シドー / ダイアン・ウィースト MAX VON SYDOW DIANNE WIEST

ハンナとその姉妹

ジャック・ローリンス&チャールス・H・ジョフィープロダクション/編集スーザン・E・モースA.C.E./撮影監督キャロル・ティバルMA.I.C. JACK ROLLINS & CHARLES H. JOFFE 総務 SUSAN E. MORSE 監督 CARLO DI PALMA s.c.
製作総指揮 ジャック・ローリンス&チャールス・H・ジョフィー/製作ロバート・グリーンハット/脚本・監督 ウッディ・アレン
ORION PICTURES Release Color by DeLuxe © 1981 Orion Pictures Corporation
ジャック・ローリンス & CHARLES H. JOFFE Produced by ROBERT GREENHUT Written and Directed by WOODY ALLEN
オリオン映画作品/デラックスカラー

●ウッディ・アレン自作を語る

—インタビュー／シカゴ・トリビューン—

■私が演じている躁うつ病的TVプロデューサー、ミッキーのキャラクターのヒントになったのは私自身です。『マンハッタン』を撮影している間、私はずっとドラマの中で使うための音楽をたくさん聴かなければなりません。だから映画が公開された後には、聴覚がなくなるのではないかと心配しました。また私は頻りに突然アザが現われ深刻に悩みましたが、結局それは何でもなかったんです。

■ドラマの三姉妹の一人一人の中に少しずつ私を見るような気がします。強いて一人を挙げるとすればリー(バーバラ・ハーシー)に似ているように思う。なぜなら、私はそれまでうまくいったのに壊れ始めた関係の中にいる人に、大変共感を覚えるからです。絶交してしまうのは難しいものです。でも現実にはハンナ(ミア・ファロー)に似ているかも……。私の友達の中で、私がいちばん成功した時期があったからです(アレンは16才にして有名なコメディ作家であった)。だから友達や家族から頼りにされる人間でした(アレンは今日まで80歳を過ぎた両親にクレジット・カードを与えたり、請求書の支払いをしてやったりしている)。と言ってもホリー(ダイアン・ウェスト)に似ているところもあります。かつて私は作家、俳優、ディレクターの方向に進みたいのかわからなかったからです。

■私には三人兄弟についての映画を作るなんて考えられません。『カラマーゾフの兄弟』のような、兄弟についての優れた小説は誰かが書くことはできると思いますが、私について言えば、もし人生の奥深くまで追求するとすれば、私はその人生をすぐに女性の話に移します。なぜなのか私にもわかりませんが。私の過去を振り返ってみると、多くの作品にダイアン・キートンが出演しています。『マンハッタン』ではマリエル・ヘミングウェイ。『インテリア』には姉妹、母、継母などすべての女性が登場しています。『ブロードウェイのダニー・ローズ』と『カイロの紫のバラ』には、全く違ったタイプの女性を演じたミア・ファローがいます。

■私はあるレベルで女性が男性より複雑だとは思いません。仕事のうえで男性にそれほど強く惹かれられないだけです。シェークスピアをごらん下さい。彼は偉大で複雑な男性を描いていますが、彼は男性が好きだったと思います。私が女性を好んで描くことを説明するひとつの理由は、私がすべて女性の家庭で育ったということです。妹が一人いますし、母は7人姉妹の中で育ち、さらに私のいとこたちはすべて女性です。

■今回の映画で私は初めて父親になろうとしている男を演じていますが、これはたぶんミア・ファローとその子供の影響によるものでしょう(彼女は8人の子供を持ち、そのうちの5人は養子である。新しく養女にした8人目は撮影の時点では誕生していなかったが、7人は映画に顔を見せている)。

■『ハンナとその姉妹』は幸せな男の人生を肯定する作品です。人生に対して楽天主でなければ議論もあり、多くの残酷と苦悩があります。しかし、私が『カイロの紫のバラ』の終りで感じたように、人は現実を見つめなければなりません。私は今もそのように感じています。人は人生を選ばねばならないのです。なぜなら、選択は単に無意味なことではないからです。“人生とは無意味だ”と言って諸問題に立ち向うことは、大変簡単なことです。しかし、それは非常に単純なアプローチです。

■このドラマの一連のナレーションの中に“Maybe”という言葉が作られています。多くの人には神が存在するか、人生に意味があるかなど知りがっているのでしょうか。私は、多くの人には“Maybe”という言葉にすぎりつきたがると思います。だから私はたぶん(Maybe)そこに何かある。残酷、戦争、病気、老化などの我々の目に明らかなもの以上に、より良い何かがあると信じて生きる方が良いと思えるのです。そして何かがわかる瞬間があるのです。直感的な証拠ではあるが、もっと何かあるにちがいないと感じる瞬間があるのです。



HANNAH AND HER SISTERS

オリオン映画作品
An ORION PICTURES Release



ウッディ・アレン/マイケル・ケイン/ミア・ファロー/キャリー・フィッシャー
バーバラ・ハーシー/ロイド・ノーラン/モーリン・オサリバン/ダニエル・スターン
マックス・フォン・シドー/ダイアン・ウィースト

ハンナとその姉妹



●ニューズ・ウィーク

ウッディの最新作は不安な都会生活への愛らしい叙情詩だ。『ハンナとその姉妹』はまったく素晴らしい。心の琴線に触れる都会のセレナーデだ。

●L.A.デリー・ニュース

ウッディ・アレンは最新作『ハンナとその姉妹』で心と魂を発見した。過去のマンハッタン3部作(『アニー・ホール』『マンハッタン』『スターダスト・メモリー』)と同じテーマと手法だが作品に“あわれみ”が加わった。これは、アレンにとって分水嶺のような作品だ。

●CNN

『ハンナとその姉妹』はウッディ・アレンの最高傑作か。三人姉妹と彼女らに関わる男たちの物語。暖かくウィットに富み、ウッディ・アレン映画の中で一番心地良く観れた作品だ。これまで彼の映画にある種の先入感を持っていた人々も、この作品に接したら意識が変わるだろう。アレンが決定的躍進を遂げた作品だ。

●ロサンゼルス・タイムズ

完璧というのは時に退屈だ。しかし、退屈という言葉は『ハンナとその姉妹』に用いるのは最後の最後だ。愛にあふれた、まぎれもなく完璧な映画だ。メロウでビューティフルでリッチな愛にあふれたこのドラマは、ウッディのベスト作であり、まったくシンプルで偉大な作品だ。アレンの深い情念がこれまでに以上に複雑にからみ合っている。

●VARIETY

『アニー・ホール』『マンハッタン』の系列をひくウッディ・アレンの最高傑作。さまざまな舞台に展開するロマンチックな愛。監賞・脚本のアレンは確かな視点と説得力で自らの狙いを映像化している。それはアレンの伝統的な手法と世界だが、興行力は確実だ。近作の中では最も魅力ある一編。

●VOGUE

『マンハッタン』がアレンの“3つの楽章”だとすると、『ハンナとその姉妹』は偉大なシンフォニーだ。エピソードの積み重ね、ムードの対比、サイレント映画のスタイルなど、アレンの才気は確実にひとつの到達点に向かっている。

●サンフランシスコ・クロニクル

ウッディ・アレンの新しい驚ろき。死よりも人生を——ウッディ・アレンが50才にして変わった。一流の演技者たちを手駒に、家族の問題と人間関係のヒダを心優しく描くアレン。憧れ、情念、郷愁、哀しみ……様々なメンタリティをミックスさせた彼独自のユーモアは、この作品でひとつの完成域に達した。

2月14日(土)よりのロードショー

特別鑑賞券 一般 ¥1200 / 学生 ¥1100 発売中!

有楽町マリオン前

ニュー東宝 シネマ2

(571)1947

伊勢丹前 シネ・タウン

新宿ビレッジ2

(351)3129